

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 26 日現在

機関番号：23501

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2017

課題番号：15K12860

研究課題名(和文)「日本英語文学」概念の創出とその総体的把握

研究課題名(英文) Conceptualizing "Japanese writing in English" and its comprehensive study

研究代表者

大平 栄子 (Ohira, Eiko)

都留文科大学・文学部・教授

研究者番号：20160616

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：アメリカ等における現地調査によって、明治・大正・昭和初期における日本人による英語著作の網羅的収集を行い、その総体的把握を行うことができた。当初の見込みをはるかに上回る150冊以上の英語テキストがあることが確認できた。さらに、その多くが仏教研究者あるいは仏教者によるものであることがわかった。その背景には、明治期における仏教への内外からの批判的対応と誤解があり、仏教の近代化を目指した改革運動が多くの英語著作に関わることが明らかになり、次の研究課題へとつなぐことができた。

研究成果の概要(英文)：I could collect almost all works and materials of Japanese writing in English during the Meiji, Taisho, and the early Showa periods through field work at the universities in the US, toward the comprehensive study of it. Such works are over 150, much more than I expected at the beginning. Through this study I could discover the fact that most of them were written by Buddhist scholars or monks, and they were motivated by their desire for modernizing Japanese Buddhism which was thought to be outdated by the Meiji government and misunderstood by western countries. This passion for the Buddhist reform movement caused them to write for the readers in English speaking countries. This discovery gives me the next research theme.

研究分野：英語文学

キーワード：日本英語文学

1. 研究開始当初の背景

(1) 申請者は平成 18 年度から、2 回にわたる科研費の補助金をえて、インド英語文学の重要な政治的テーマの一つである「印パ分離独立」に焦点を合わせて、パキスタン・バングラディッシュを視野に含めた、インド英語文学の体系的把握を試み、その成果を『インド英語文学研究 分離独立文学と女性』(彩流社)としてまとめることができた。

(2) 平成 24 年度から 26 年度にかけては、同じく科研費をえて(課題「タゴールの英語文学の全体的把握を通じたインド英語文学像の見直し」)、タゴールの英語文学に焦点を合わせて、その独自性の解明と世界文学への位置づけを試み、タゴール国際大学を始め、インド内外で開催された数多くのタゴール生誕 150 周年記念国際学会での研究発表を行い、さらに、複数のタゴール研究論集、国際学会誌等のさまざまな媒体を通してその成果を国内外に発信し、充実した研究成果をあげることができた。

(3) これらの研究遂行のために、国内に残されたタゴール関連の資料の収集と分析を進めて行くなかで、タゴールが岡倉天心や野口米次郎と親交を結んでいたこと、岡倉らもまた英文の作品を執筆していたことを再認識するに至った。その際、英語で書かれた日本人によるテキストを「英語文学」として捉える視点が皆無であることに気づき、今回の着想にいたった。

2. 研究の目的

明治維新を経て海外諸国との交流が活発化すると、内村鑑三、新渡戸稲造、岡倉天心、野口米次郎、鈴木大拙ら多くの人々が日本を紹介する優れた英文の著作を刊行(あるいは英語で講演)し、それが欧米の日本理解に大きな影響を与えたことは周知の事実である。しかし、これまでこれらの日本人の作品を「英語文学」として総体的に把握しようとする試みは皆無であった。

本研究はそうした現状を鑑み、以下の 3 点を研究課題とするものである。

(1) 上述の人物を中心に、明治期から戦前までに執筆された日本人による英文の著作を網羅的に収集し、その文学的・思想的特質の解明を試みることによって、「**日本英語文学**」の概念を確定するとともに、それを同時代の世界の英語文学のコンテクストに位置づけることを目指す。

(2) 植民地化を逃れてみずから帝国主義勢力の仲間入りを果たした、日本という特色ある地域の英語文学に光を当てることによって、もっぱら植民地化された地域について、宗主国-旧植民地、英語-現地語という視座から把握されがちな**既存のポストコロニアル**

文学研究に対する、方法上の新たな問題提起を試みる。

(3) ノーベル賞作家であるタゴールは、上述の人物とほぼ同じ世代を生きており、岡倉や野口とは親交を結んでいた。日本とインドを取り巻く歴史的状況を視野に入れつつ、彼らの思想的な共通点と相違点を探ることによって、アジアという視座から 21 世紀初期の世界思潮にメスを入れるとともに、**従来欧米側の視座から描かれてきた近代思想史に対し、独自の視点からの修正**を試みる。

3. 研究の方法

(1) 現地調査などによる日本人による英語文学関連のテキストの網羅的収集とその総体的把握、(2) 「方法としての日本英語文学」という視座からする既存のポストコロニアル文学研究の成果の批判的検証と、方法に関する独自の立場からの問題提起、(3) タゴールの思想と、彼を熱狂的に受け入れた同時代の日本の思想状況を比較検討することによる、欧米の後追いではないアジアの視座からの理論と思想史の提言、の 3 点を研究の軸とする。所期の目標達成のために、これまでネットワークを築いてきた欧米やインドなど海外の研究者との連携を重視し、研究成果は国際的に通用するものとすべく、海外の主要学会において積極的に発表する。

4. 研究成果

(1) 基礎資料の収集・分類・整理については次のような成果をあげることができた。従来の内外における研究では以下のような網羅的資料収集はなされてこなかったことである。

内村鑑三、新渡戸稲造、岡倉天心、野口米次郎、鈴木大拙らの英語著作を網羅的に収集した。

上記以外の日本英語文学の著作および、代表的英語雑誌を当初予想されていた数量をはるかに超える(200 冊あまり)収集した。

カリフォルニア大学バークレー校アジア関連図書館においての野口の未発表文献を含む、貴重な文献を収集することができた。

誰も予想しなかった数量の文献があることが確認されたが、その文献整理を完成させた。

(2) 明治・大正・昭和初期(第二次世界大戦まで)において、日本人による英語による著作数は著書のみに限っても 150 冊を優に上回ることが調査の結果明らかになったが、これは当初予測をはるかに上回る。The Light of Dharma, The Eastern Buddhist などの主要英文雑誌への投稿者を含めると当初計画していた英文著者である、一般に知られた著者以外にも、赤松連城、姉崎正治、朝河貫一、南条文雄、高楠順次郎、原勝郎、平井金三、石橋湛山、泉芳環などを含む 50 名あまりの

著者の存在が明らかになった。このこと自体が予想外の成果であると言える。

(3) その背景にあるのは、日本の近代化のために、西洋の知識習得が急務だった時代において、彼らは異文化を吸収しつつ、自国の文化を相対化、自己像の再形成を促された事情があり、この時期に、多くの日本文化論・日本人論が書かれたゆえんもここにある。この点に関しては当初予想されたことであるが、次の点は今回の研究の予想外の成果である。この今日にいたるまで世界的影響力をもつ質の高い、かつ膨大な英語著作者の多くが、仏教者や仏教研究者であることが判明した。その背景には明治初年に起きた仏教の危機があり、それへの対応としての仏教の近代化への強い意欲と近代ナショナリズムと関わるキリスト教への対抗意識があった。仏教は19世紀のヨーロッパで発見されたと言われる。その仏教研究への熱狂により実証的研究が加速化された一方で、オリエンタリズムによる否定的イメージが根強かった。このイメージの転覆は野口米次郎をはじめとするこれらの英語文学者たちによってどのようになされたかを検討し、鈴木大拙の生涯をかけた大乘仏教擁護の熱意がどのような形で英語著作に結実したかについて考察することができた。特に従来この視点からの研究は皆無であった、岡倉天心の未公開のオペラの台本 *The White Fox* に焦点化し、明治・大正・昭和初期の仏教改革との関わりの中で考察し、国際学会での発表や、アメリカの大学でのセミナー (St. Norbert College) で講演活動を行う中で、同領域に関心をもつ英文学研究者および、フランス文学など外国語文学研究者と意見交換することができ、新たな資料提供もうけることができた。西欧仏教研究者・観察者による批判の背景には、仏教の「涅槃」を消滅と見る誤解に基づいている。大乘仏教を認めない視点に加え、この涅槃への誤解は、岡倉天心の英語著作によって反論が試みられているが、従来は『東洋の理想』や『茶の湯』などの著作に焦点が当てられ、オペラは研究対象にならなかった。だが、このテキストこそが、上記の誤解を解く物語の表象力を発揮するものであることを論じ、その研究成果を国際人文学会誌等で発表し、海外発信することができた。『碧岩録』に関わる著作のある翁久允研究者との情報・意見交換を通して、仏教への関心も高く、ラビンドラナート・タゴールとの関係もあり、天心とは共通点が多い翁との比較考察の視点の意義も確認できた。

(4) インド、韓国、カンボジア、ベトナムなどでの調査、また、他のアジア諸国の英語文学著作の調査の結果、インドおよび日本の明治・大正・昭和初期における英語著作が他を質・量ともに圧倒していることがわかった。パキスタン系ディアスポラの活躍は顕著だ

が、パキスタンおよびバングラデシュにおける英語著作は乏しいことはこれまでの調査で確認済みであった。日本英語文学をアジア英語文学および世界文学の視点から検討する上で貴重な成果であった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

Ohira Eiko, "Okakura Tenshin's *The White Fox* in the Context of the Buddhist Reform Movement in the Meiji and Taisho Periods" (16th Hawaii International Conference on Arts and Humanities Proceedings) 査読あり、297-309頁、2018年1月11日

Ohira Eiko, *Mahayana Ana: Japanese Writings in English in the Meiji, Taisho and Early Showa Periods* (15th Hawaii International Conference on Arts and Humanities Proceedings) 253-269頁、査読有、2017年1月。

Ohira Eiko, *Rabindranath Tagore's Chandalika and Okakura Tenshin's White Fox: Narratives of Burning Longing and Self-sacrificial Love* (14th Hawaii International Conference on Arts and Humanities Proceedings). 547-560頁、2016年1月10日。

Ohira Eiko, *Rabindranath Tagore and Miyazawa Kenji: A Vision of a Supreme Self* "India-Japan Relations: Transforming into Potential Partnership. Vol. II. Ed. International Center for Southeast Asian and Pacific Studies, Sri Venkateswara University: 41-47, 査読あり、2015年。

[学会発表](計4件)

Ohira Eiko, "Japanese Writing in English and The Buddhist Reform in the late 19th and early 20th Century" 2018年3月、St. Norbert College 国際語学科セミナーでの講演(招聘)

Ohira Eiko, "Narratives of Revolting Women in Indian Writing in English". Janki Devi Memorial College, University of Delhi 英文学科特別セミナー招聘講演、2017年2月23日、同大学にて発表。

Ohira Eiko, *Mahayana Ana: Japanese Writings in English in the Meiji, Taisho and Early Showa Periods* (15th Hawaii International Conference on Arts and Humanities) 査読有、2017年1月。

Ohira Eiko, *Rabindranath Tagore's Chandalika and Okakura Tenshin's White Fox: Narratives of Burning Longing and Self-sacrificial Love* (14th Hawaii

International Conference on Arts and Humanities)2016年1月10日.

〔図書〕(計5件)

大平 栄子他、「インド大反乱を見たメンサーヒブたち ルース・クーブランドの滞在記」窪田憲子・木下卓・久守和子編『旅にとり憑かれたイギリス人、トラヴェルライティングを読む』(ミネルヴァ書房)、67-88頁、2016年8月。

Ohira Eiko, Subjected Subcontinent: Sectarian and Sexual Lines in Indian Writing in English (Oxford:Peter Lang)Cultural Identity Studies シリーズ 20 巻目、査読有、総ページ数 274 頁、2016 年 6 月。

大平 栄子、「インド英語文学研究 分離独立文学と女性」、本文 317 頁、文献 66 頁、彩流社、2015 年。

Ohira Eiko 他, "The Subjection of Women: A Counter Narrative to the Pathology of Inferior Womanhood." De-coding the Silence: Reading John Stuart Mill's The Subjection of Women. Eds. S. Mallick & Sarbojit Biswas. Delhi:AADI Publications: 35-43, 査読あり、2015 年。
Ohira Eiko 他, "Rabindranath Tagore and Miyazawa Kenji : A Vision of a Supreme Self." India- Japan Relations: Transforming into Potential Partnership. Vol. II. Ed. International Center for Southeast Asian and Pacific Studies, Sri Venkateswara University:41-47, 査読あり、2015 年。

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

大平 栄子(OHIRA, Eiko)
都留文科大学・文学部・教授
研究者番号：20160616

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：

(4)研究協力者

()